

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年5月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0272200312
法人名	社会福祉法人 長慶会
事業所名	グループホームりんご座
所在地	青森県弘前市大字坂市字亀田53-3 (電話)0172-84-1010
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.42人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000~9,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		830 円

(4)利用者の概要(平成20年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	74 歳	最高	89 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	すとうクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「住み慣れた場所でお互いを尊重し、共に支え合い、安心した暮らしを営めるよご支援します。そして、一人ひとりの「私の人生」を大切に致します。」という理念を掲げ、職員一人ひとりが理念を理解し、実践にむけて日々のケアを提供している。

町内会に加入し、地域の行事や清掃等に参加するなど、地域との交流を深めるための取り組みが行われている。

職員の育成にも力を入れており、内部研修、介護技術テストを実施するなど、サービスの質の向上や新たな知識の習得に取り組んでいる。

また、入居時に利用者の受診状況を把握し希望に応じた医療機関を受診できるようにしているほか、協力病院の医師が週1回定期的に往診しており、必要に応じて随時相談することができる体制を整備している。

さらに、毎月広報誌(りんご座通信)を発行し、その際個別に利用者の近況を家族に報告すると共に、毎月の利用料支払い時に、受診結果の伝達や情報交換等を行い家族の納得を得ている。

使い慣れたものを持ち込んでもらうように、入居時に働きかけるなど、利用者の意向を確認し個々にあった居室づくりを職員が一緒に行っている。

【特に改善が求められる点】

運営推進会議において、自己評価内容を説明したり、外部評価結果を報告することに期待したい。

定期的に広報誌を配布したり、自己評価や外部評価の結果を報告するなど、積極的に行政と連携を図ることに期待したい。

これまでの研修傾向や職員の希望を把握した上で、外部研修に関する年間計画を作成することに期待したい。

災害発生時に備えて、食料や水、寒さをしのげる物品等を準備することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果を基に改善策を検討し今後のより良いケアサービスに繋げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者や管理者は、内部研修等を通じて評価のねらいや活用方法等を周知しており、職員は理解している。また、自己評価は管理者が作成したものを基に、再度全職員で確認し作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回開催しており、町会長、民生委員、家族代表、市役所担当等が参画している。会議では利用者の状況やホームの活動内容等を報告し、メンバーの意見を引き出すように取り組んでいるほか、出された意見をサービスの質の確保・向上に繋げている。</p> <p>今後は、包括支援センターの参加も呼びかけていく予定である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>年1回家族会を開催したり、毎月広報誌を発行するなど、定期的に利用者の日々の様子を家族に伝えている。</p> <p>また、ホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、面会時に職員から気軽に話しかけるなどし、家族が要望や意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。</p> <p>家族から意見が出された際は、全職員で話し合い、速やかに対応している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接している特養ホームの面会者や、デイサービスの利用者などが気軽に立ち寄っている。また、町内会に加入し、地区行事に積極的に参加したり、法人の夏祭りに地域の方を招待するなど、積極的に地域交流を図っている。</p> <p>毎年、母体施設で中学生のワークキャンプを受け入れ、外部の方がホームを訪れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>隣接している特養ホームの面会者や、デイサービスの利用者などが気軽に立ち寄っている。また、町内会に加入し、地区行事に積極的に参加したり、法人の夏祭りに地域の方を招待するなど、積極的に地域交流を図っている。</p> <p>毎年、母体施設で中学生のワークキャンプを受け入れ、外部の方がホームを訪れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念を月1回の会議や申し送り時に周知したり、玄関、事務室等に掲示するなど、全職員間での共有を図るよう努めている。また、職員は理念を十分理解した上で日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。</p> <p>馴染みの関係が途切れることがないように異動は最小限としている。また、異動や新しい職員を採用する際は、利用者に十分な説明を行い、詳細な引継ぎを行い利用者への負担を抑えるよう配慮している。</p> <p>ホームは積極的に職員育成を行っており、人事評価や介護技術テストを毎年実施しているほか、外部研修には主に管理者や計画作成者が参加し、受講後内部研修を行うことで全職員に周知している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用相談時は、利用者や家族が安心してサービスが開始できるように十分な話し合いをし、調整を行っている。また、本人がホームの雰囲気馴染めるよう、利用者の視点に立った支援を行っている。</p> <p>食事の下ごしらえや盛り付け、洗濯たたみ、植木の剪定など利用者の得意分野を活かせるように、職員が支援しており、喜怒哀楽を共有して生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>職員は一人ひとりとの関わりを重視しており、利用者の希望等の把握に努めている。また、把握が困難な場合は、全職員の関わり中での気づきから把握したり、必要に応じて家族や近隣から情報収集を行っている。</p> <p>介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月毎にケアプラン会議にて見直しをしているほか、利用者の状態に変化があるときは随時見直しを行っている。見直し時は個別記録や利用者の状態、家族の意見等を基に現状を把握し、再アセスメントを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、利用者の言動を否定することなく個々に応じた対応や常識的な声掛けをしており、介助の際は、他者に聞こえないように話すなど、羞恥心やプライバシーに配慮している。職員は、個人情報の取り扱いについて十分理解しており、外部の目につかない事務室の書棚に保管している。</p> <p>利用者の好みに配慮した献立を作成しているほか、利用者は個々の状態や意思に合わせ、調理の下ごしらえや盛り付けなどを職員と一緒にやっている。食事の際は、職員は見守りや一部介助を行いながら、一緒に食事を摂り、楽しい食事となるよう支援している。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『住み慣れた場所でお互いを尊重し、共に支え合い安心した暮らしを営めるようご支援します。そして、一人ひとりの「私の人生」を大切に致します。』という地域密着型サービスの役割を反映させたホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を月1回の会議や申し送り時に周知したり、玄関、事務室等に掲示するなど、全職員間での共有を図るよう努めている。また、職員は理念を十分理解した上で日々のケアサービスに反映させるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣接している特養ホームの面会者や、デイサービスの利用者などが気軽に立ち寄っている。また、町内会に加入して地区の清掃活動等の行事に積極的に参加したり、法人の夏祭りに地域の老人クラブ等を招待するなど、積極的に地域交流を図っている。毎年、母体施設で中学生のワークキャンプを受け入れ、外部の方がホームを訪れる際には、利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は、内部研修等を通じて評価のねらいや活用方法を周知しており、職員は理解している。また、自己評価は管理者が作成したものを基に、再度全職員で確認し作成している。自己評価や外部評価結果を基に話し合いを行い、改善策を検討する体制が整っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催しており、町会長、民生委員、家族代表、市役所担当等が参画している。会議では利用者の状況やホームの活動内容等を報告し、メンバーの意見を引き出すように取り組んでいるほか、出された意見をサービスの質の確保・向上に繋げている。しかし、会議内で自己評価や外部評価結果を報告するまでには至っていない。	○	運営推進会議において、自己評価内容を説明したり、外部評価結果を報告することに期待したい。
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市役所の担当職員が参画しており、ホームの現状を理解して貰っているほか、必要に応じて担当職員との連携を図っている。しかし、広報誌の配布や自己評価及び外部評価の結果を報告するまでには至っていない。	○	定期的に広報誌を配布したり、自己評価や外部評価の結果を報告するなど、積極的に行政と連携を図ることに期待したい。
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見制度等についての外部研修に参加し、ホームで内部研修を行うことで全職員に伝達しており、管理者や職員は制度について概ね理解している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止関連法に関しての研修会に参加し、理解を深める取り組みを行っている。また、管理者は虐待について日常周知徹底できるよう、お互いが意識し合えるよう支援し、未然に防ぐように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの方針や取り組みについて十分説明を行っており、利用者や家族の疑問等を引き出し、丁寧に対応している。契約改定時や退去の際も十分に説明を行っているほか、退去の際は情報提供を行うなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月りんご座通信を発行し、利用者一人ひとりの近況やサービス提供体制の変化等を報告しているほか、面会時に健康状態の報告や預かり金出納帳の確認を得ている。また、随時電話等でも報告を行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員から気軽に話しかけるなどし、家族が要望や意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。また、内・外部苦情受付窓口を明示しているほか、玄関に意見を書きこめる用紙を設置している。出された意見等は会議等で話し合い、サービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係が途切れることがないよう異動は最小限としている。異動や新しい職員を採用する際は利用者には十分な説明をすると共に、詳細な引継ぎを行い利用者への負担を抑えるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の業務に関する相談等は主に管理者が助言している。また、積極的に職員育成を行っており、人事評価や介護技術テストを毎年実施しているほか、外部研修には主に管理者や計画作成者が参加し、受講後内部研修を行うことで全職員に周知している。しかし、外部研修に関する年間計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修傾向や職員の希望を把握した上で、外部研修に関する年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、交流や連携の機会が確保されている。また、管理者はリーダー研修等で知り合った同業者との交流があり、日々のサービスの向上に繋げるための情報交換などを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談時は、利用者や家族が安心してサービスを開始できるように十分な話し合いをし、調整を行っている。また、本人がホームの雰囲気に馴染めるよう、利用者の視点に立った支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の下ごしらえや盛り付け、洗濯たたみ、植木の剪定など利用者の得意分野を活かせるように、職員が支援しており、喜怒哀楽を共有して生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人ひとりとの関わりを重視しており、利用者の希望等の把握に努めている。また、把握が困難な場合は、全職員の関わりの中での気づきから把握したり、必要に応じて家族や近隣から情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時は、利用者の意見を取り入れ、担当介護員、管理者、計画作成者でプランを作成し、職員全員で話し合いをして決定している。また、原案作成後に家族に説明し同意を得ており、利用者本位の個別具体的なものとなっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、3ヶ月毎にケアプラン会議にて見直しをしているほか、利用者の状態に変化があるときは随時見直しを行っている。見直し時は個別記録や利用者の状態、家族の意見等を基に現状を把握し、再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や通院、馴染みの場所への外出など、利用者や家族の要望に応じた柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者の受診状況を把握し、希望に応じた医療機関を受診できるようになっているほか、協力病院の医師が週1回定期的に往診しており、必要に応じて随時相談することができる体制を整備している。毎月、面会時等に受診結果の報告や情報交換等が行われ、情報の共有が図られている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針や対応を明確にしており、重度化や終末期に備えて、家族や医療機関と随時話し合いを行っており、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の言動を否定することなく個々に応じた対応や常識的な声掛けをしており、介助の際は、他者に聞こえないように話すなど、羞恥心やプライバシーに配慮している。職員は、個人情報の取り扱いについて十分理解しており、外部の目に付かない事務室の書棚に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、可能な限り利用者を優先しており、その日の希望、身体・精神状況に合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮した献立を作成しているほか、利用者は個々の状態や意思に合わせ、調理の下ごしらえや盛り付けなどを職員と一緒にやっている。食事の際は、職員は見守りや一部介助を行いながら、一緒に食事を摂り、楽しい食事となるよう支援している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能で、利用者の希望を聞きながら、実施している。職員は利用者に対する負担感や羞恥心、安全性に配慮し、適切な支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量等は、本人、家族、知人などから情報を収集し把握している。また、一人ひとりに合った役割を見つけ、植木の剪定、野菜作り、漬物の漬け方など利用者と一緒にやっている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期間以外は日常的に散歩したり、毎日近くのスーパーへ出かけたりしている。行事等で外出する際には、距離やその日の体調に配慮し対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会があり、定期的に会議が行われ、身体拘束は行わないと言う姿勢でケアにあたっている。やむを得ず身体拘束を行う場合の取り決めや記録を残す体制、家族から同意を得る体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠していない。また、居室には鍵を設けていない。職員は利用者の外出傾向を察知できるよう、見守りを行っており、察知した時は付き添う等の支援をしているほか、無断外出に備えて地域から協力が得られるよう運営推進会議などで働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と合同で年2回日夜を想定した避難訓練を実施している。また、災害時に近隣住民や関係機関からの協力が得られる体制が整えられているが、備蓄品等の準備をするまでには至っていない。	○	災害発生時に備えて、食料や水、寒さをしのげる物品等を準備することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスやカロリーを配慮したものとなり、職員は1日の食事や水分量を概ね把握し、状況に応じて記録している。利用者の栄養摂取状況等について栄養士から指導や助言が得られる体制が整っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルを作成しており、母体施設から情報があつたとき等には見直しを行っている。また、定期的に内部研修を行い、職員の理解を深めている。感染症に関する情報は家族会等で周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテーブルや椅子、畳のスペースがあり、外出時の写真を飾るなど家庭的な雰囲気である。職員が立てる物音やテレビ等の音量は適切で、日差しの強さは、ロールカーテンで調整しているため快適な空間となっている。敷地内には畑があり職員と一緒に季節の野菜を作っている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでもらうように入居時に働きかけており、茶碗、箸、湯飲み茶碗など、自宅で使っていたものを持参しているほか、利用者の意向を確認し一人ひとりに合った居室づくりを職員と一緒にしている。		

※ は、重点項目。